

〔文学篇〕

【研究ノート】

予定の時点・期間を示す前置詞 *pour* ——現代フランス語における動詞の語彙的な共起制約——

市川 雅己

« Pour » marquant le terme prévu dans le temps
—— Contraintes lexicales du verbe de la cooccurrence en français contemporain ——

Masaki ICHIKAWA

要旨 (Abstract)

L'emploi de «pour», tel qu'exprimé dans le titre de cet article, a comme contraintes lexicales du verbe que le procès atteigne son but. Ce but est atteint soit avant, soit pendant la durée prévue qui est exprimée par le syntagme prépositionnel. Nous utilisons ici le mot «but» dans une acception large : son sens le plus fermé correspond aux cas où le but est inhérent au procès exprimé par le syntagme verbal ; son sens le plus ouvert, à ceux où le but est construit par le contexte. Au vu des éléments susmentionnés, cet emploi de «pour» nécessite une transition d'un état donné à l'autre.

キーワード (Keywords) : 予定の時点・期間、共起制約、同質／異質

はじめに

予定の時点・期間を示す前置詞 *pour* と共起する動詞は、その語彙的意味や時制により制約を受けることはかねてより指摘されているが、その詳細は必ずしも明らかではない。時制の共起制約については別の機会に譲り、本稿は特に動詞の語彙的意味に関する制約を出来るだけ詳らかにしようとするものである。本稿が考察の出発点とする朝倉 (2002) および朝倉 (1984) の記述を見よう。

1. 朝倉 (2002) および朝倉 (1984) の指摘

朝倉 (2002) および朝倉 (1984) は以下のように記述する。

(1) *pour* + 時を表わす名詞・副詞 現在・過去から見て未来の予定の期日・期間を示す。
朝倉 (2002, p.408、下線引用者)

(2) *pour* は未来を示す要素を含まない文には用いられない : *J'ai été à Paris pour deux mois. (正 : pendant deux mois)

(ibid.)

- (3) *rester, séjourner* と共にも用いない。 cf. *Vous comptez rester combien de temps en France ?*
(*ibid.*)
- (4) ***pour* と動詞の制限** 予定の期間は動作の行われた期間と一致するのではないから、動詞の意味・時制からして、動作が全期間にわたることを表わすような文脈では *pour* は用いられない。
朝倉 (1984, p.85)

上記(4)の記述に続けて以下の例文を挙げ、それぞれが容認されない理由を述べている。

- (5) **J'ai été à Paris pour deux mois.*
(6) **Pour combien de temps restes-tu à Paris ?*
(7) **Je séjourne en France pour deux mois.*

「例(5)では *J'ai été* という複合過去形が (...), 例(6)、(7)では一定期間にわたる動作を表わす *rester, séjourner* という動詞の意味が *pour* と相容れない。 *pour* を *pendant* で置きかえれば、3例とも正しい文になる。」

(*ibid.*)

以下では、これらの記述の妥当性を観察して行こう。

2. 例文の観察と検討

まず(1)で「現在・過去から見て」と限定しているが、未来の1時点から見た更なる未来の予定であつても構わないはずである。

- (8) *Nous avons loué la villa pour deux mois.* (*ibid.*)
(8') *Nous louerons la villa pour deux mois.*
(8'') *Nous aurons loué la villa pour deux mois.*

時間軸上のある1点から見た未来の予定を示してさえいれば、容認されるのである。

次に(2)で「未来を示す要素を含まない」ければならないとしているが、これは同様に「動詞の行為がなされた時点から見た未来を示す要素」の意と解するべきである。

- (2) **J'ai été à Paris pour deux mois.*
(2') *Je suis descendu dans un hôtel à Paris pour deux mois.*

(2')では動詞行為が為された時点が、*pour* で導かれる予定期間の開始点になると考えられよう。とすれば、動詞はその語彙の性質として「終点をもつ」(英語: *telic*) ことが共起するための必要条件

となるのではないか。(4)の「予定の期間は動作の行われた期間と一致するのではないから」という記述は、それを云ったものであろう。(8)の動詞 louer も語彙的に終点をもたない動詞のように一見思われるが、「prendre à loyer, en location, à bail」(*Petit Robert*) という語義からうかがわれるように、「賃貸契約を結ぶ」という契約書を作成した時点で終点に達する動詞なのである。次の例の動詞も一見、語彙的な終点をもたないように見える。

- (9) La naissance du bébé était prévue *pour* la fin du mois de septembre.
- (10) C'est toujours *pour* le mois de mai ton mariage ?
- (11) Ce sera *pour* un autre jour.
- (12) Je ne vous attendais pas *pour* aujourd'hui.
- (13) Ce n'est pas *pour dans* longtemps.
- (14) Tu en as *pour jusqu'à* minuit.
- (15) ce qu'il désirait *pour après* sa mort
- (16) Tu es *pour* longtemps ici ?
- (17) Il nous y invite *pour* aussi longtemps que nous voulons.

朝倉 (1984, p.85)

また、以下も同様に動詞行為の終点はないように見える。

- (18) Ce serait *pour* plus tard.
- (19) Ce sera *pour quand* tu seras guéri.

朝倉 (2002, p.408)

(9)(12)(15)の動詞句、être prévu, ne pas vous attendre, désirer は共に直説法・半過去形に、(13)の動詞句 ne pas être は直説法・現在形に置かれているが、これらの動詞句の意味する行為は、いずれも pour が導く期間の開始点（前）あるいは期間中に終点に達することが理解される¹⁾。(9)の出産予定は9月中にあるであろう出産の瞬間に予定ではなく現実のものとなって終わりを告げるのであり、(12)の不待機状態は vous の出現により消滅し、(15)の「願う」という行為自体も死の瞬間に途絶えるのである。(13)の事態の実現も遠い将来が始まる以前に為されるのである。

(10)(11)は例えば以下のように書き換えられるであろう。

- (10') Ton mariage tombe toujours au mois de mai ?
- (11') On fera ça un autre jour.

相手の婚姻も何らかの行為も予定された期間内、「5月中」や「別のある日」に為されて終点に達するのである。(18)(19)も全く同様に、動詞句の示す事態が予定期間内である「後の時点」、「相手が回復して健康になっている期間」に実現され終結すると考えられよう。

他方、(14)(16)(17)では、(4)の記述に反し「予定の期間は動作の行われた期間と一致する」ように

一見感じられる。en avoir という状況は真夜中までずっと継続するし、être ici が示す状態は長期間継続するし、nous y inviter した（結果）状態も我々が望む間続くのである。これらと前掲の以下の例との相違は何であろうか。

- (5) *J'ai été à Paris *pour* deux mois.
 (6) **Pour* combien de temps restes-tu à Paris ?
 (7) *Je séjourne en France *pour* deux mois.

(14)(16)(17)では、動詞句自体は終点をもつとは云えぬものの、話者・聞き手間で、動詞句が置かれている時点（すなわち発話時）と *pour* 以下の予定の期間とは質的に異なった時間と意識されているのである。したがって、動詞行為はその境界で云わば強制的に終点に到達させられるのである。例えば(16)では、être ici maintenant と云う動詞行為は終点に達し、予定期間では類似してはいるが別個の être ici même dans longtemps という動詞行為を措定しているのである。そのため、同質の行為が持続している(5)(6)(7)とは容認性が異なるのである。

結論

予定の時点・期間を示す *pour* は、動詞行為が文脈や発話状況等の何らかの手段で、*pour* の導く期間の開始点（前）あるいは期間内に終点に到達することが保証されれば、その動詞句と共起可能となる。また、それ自体に語彙的な終点がない行為を示す動詞句も、その行為が為される時点と *pour* が指定する時点・期間とが文脈上、異質であることが担保されれば容認可能となるのである。

注

- 1) 動詞行為が終点をもつか等の動詞の語彙的アスペクトを考察する際には、動詞のみならず文脈や発話状況を考慮に入れねばならない。したがって目的語・属詞や否定の副詞等も含めた動詞句全体を吟味する必要がある。faire un saut 「跳躍する」(telic)/faire des sauts 「飛び跳ねる、跳ね回る」(atelic)、jeter une pierre (telic)/jeter des pierres (atelic)等の差異が典型的である。

Références

- 朝倉 季雄 (2002) 『新フランス文法事典』白水社、p.408.
 ——— (1984) 『フランス文法メモ』白水社、pp.84-85、朝倉 (2005) 『フランス文法集成』白水社、pp.407-408に再掲。
 Paul ROBERT et al. (2008) *Le Nouveau Petit Robert de la langue française*, Dictionnaires Le Robert.